

令和2年度 学校自己評価表 ( 計画段階 ・ 実施段階 )

福岡県立八女高等学校長 印

その1

学校経営計画 ( 4 月 )				評価 ( 3 月 )		
学校教育目標		「質実剛健」の校訓を踏まえ、志を高く掲げて社会に貢献する有為な人間を育成する。 ①目指す生徒像・・・豊かな心と逞しく生きる力を備えた生徒 ②目指す教師像・・・生徒のよさを見出だし伸ばすことのできる教師 (能力、適性、可能性、性格 等々)				
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標		
本年度教育目標を「質実剛健」の校訓の理念に基づき、文武両道の実践を通じて、「知徳体」の調和のとれた人材の育成を目指すとした。また、理想の生徒像を、「志の実現のために、学び、挑み、和を尊び、社会に貢献できる人物」とした。昨年度は、全職員の共通理解のもと年度重点目標をほぼ達成することができたが、課題も残った。今年度は、8つの資質・能力 (主体性、創造性、他者理解、批判的思考力、構想力、見通す力、コミュニケーション力、自己調整力) の育成に重きを置き、教育活動を展開することで、さらに魅力的な学校づくりをおこなう。		本校の教育理念をすべての職員で共有し、全ての教育活動で実践する。		魅力ある学校づくりを更に推進し、これからの社会の変化に対応できる教育システムの構築を検討する。		
		基本的な生活習慣を確立し、自己管理能力を育むとともに、逞しさの醸成を図る。		改訂した「学習と生活の記録」をもとに、生徒に自己管理及びスケジュール感覚を自覚させ、学習習慣の定着を図る。		
		学びの基礎・基本を定着させ、「学びの振り返り」を強化し、意欲的に学ぶ態度を涵養する。		基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る工夫を行うとともに「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング型授業)の実践・研究を行う。		
		様々な場面での「気づき」を大切に、「利他の精神」や「感謝の心」を育む。		観点別評価とカリキュラム・マネジメントの実践と検証を行う。		
		総合的な探究の時間での地域協創 (ちくごのみらいプロジェクト) を軸に、解なき問いに挑戦する。		地域の課題を考察することで、「批判的思考力」や「表現する力」を育成する。また、自らのキャリア構築の一助とする。		
		学校・家庭・地域の連携を強化し、小・中学校へ積極的に本校教育活動の広報を行う。		入学志願者数 (志願倍率1.2倍) を確保するために本校教育活動及び生徒の真の姿を、小・中学校、学習塾、地域へPRする。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 ( 3 月 )		次年度の主な課題	
教科指導 (校内研修)	校内における各研修と授業研究を推進する。	本校の教育目標、各分掌の重点目標を達成するために必要な研修を実施し、教職員の指導力および学校の組織力の向上を図る。				
		「主体的・対話的で深い学び」とICT活用の視点からの学習過程の改善を推進する。また、研究授業の指導案、研究協議は研究紀要に掲載し、更なる授業改善に生かす。				
	家庭学習を質・量ともに充実させるとともに、幅広い学力の生徒に対応した「できる」授業を実践し、学力向上を図る。	授業改善に取組み、生徒の学習意欲や満足度の向上につなげる。				
		考査問題の質を向上させ、定期考査の学習が学力の向上につながるようにする。 定期考査前の学習について、計画、学習時間の記録及び振り返りをさせることで、学習の自己調整能力を身に付けさせる。				

	<p>定期考査前の学習について、計画、学習時間の記録及び振り返りをさせることで、学習の自己調整能力を身に付けさせる。</p> <p>勉強方法についてのガイダンスを各教科で適宜行い、自学力を高めさせる。</p> <p>平日1・2年生150分、3年生200分以上、休日1・2年生300分、3年生400分以上の家庭学習時間を確保させる。</p> <p>学習課題を生徒に課す際は、各学年で調整する。</p> <p>学業成績不振者に対して「成績向上指導」「成績向上保護者会」を開催し、学年末に「学力向上指導」を実施することにより、学習内容の補充及び学習への意識向上を図る。</p> <p>タブレットや電子黒板、プロジェクタ等のICT環境の整備や授業支援を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業展開を学校全体で推進する。</p> <p>教室の環境整備（後方棚の整理等）、授業開始時の躰指導（服装・挨拶等）を徹底することで、緊張感のある授業を行う。</p>			
生徒の実態に応じた評価方法及びカリキュラムを検討する。	<p>観点別評価を実施し、指導と評価の一体化を図って、授業や学習指導の改善につなげる。</p> <p>「教育課程検討委員会」を実施し、学習指導要領改訂を見据え、本校生徒に応じたカリキュラムを検討する。</p>			
広報活動を活性化し、入学者選抜の倍率を1.2倍以上にする。	<p>学校開放を奨励し、中学生体験入学の内容をさらに充実させ、中学生・保護者に対し、本校教育活動への理解を図る。</p> <p>中学校での進路説明会において、本校および本校生の魅力をアピールし、本校の広報活動に努める。</p> <p>塾に出向いたり、塾関係者を招いたりして、本校に対する理解を深めてもらう。</p>			

生徒指導	安心・安全な環境を整える安全管理を行う。	交通マナーの意識を向上させ、交通事故「0」を目指す。特に、バイク通学者、バイク免許取得者、自転車通学者に対して、加害者側の可能性・危険性も含めそれぞれの指導を行う。			
		人権教育やいじめについてのホームルーム、学年集会等を通して、相手の立場や気持ちをくみ取る、尊重することを学ばせ、自他を大切に思いやりの心を育成する。			
		部活動顧問における監督の徹底を図り、事故やケガの防止や早期対応に努める。			
		不審者情報の速やかな提供等、危機管理マニュアルの活用により安全対策を図る。			
	状況を的確に捉え、自ら考え、主体的に行動することができる自主・自律した生徒を育成する。	「非行防止教室」や日頃のホームルーム・集会等の教育活動を通して規範意識を向上させ、ルールやマナーの大切さを理解して主体的に行動できる生徒を育成する。			
		携帯電話の使用について、校内外におけるルールやマナーの遵守、緊急時の対応など、自ら考え行動をとることができる生徒の育成に努める。			
		生徒会活動・各種委員会活動の充実を図り、生徒一人ひとりが学校行事に積極的に参加することにより、自主・自立の精神を涵養する。			
		基本的な生活習慣を身に付け、下校時間の厳守により家庭学習時間の確保を図り、希望進路実現に向けた質の高い文武両道を目指す。			
	自らに自信を持ち、思いやりの心、謙虚さ、直向きさ、感謝の心を持つ生徒を育成する。	日々の授業や清掃活動、「奉仕活動」等の体験活動に真摯な態度で臨ませることにより、信用を得るということを学ばせ、謙虚・感謝の心を育成する。			
		「立ち止まって挨拶」「校門一礼」を奨励し、感謝の心を育み、心のこもった挨拶ができる生徒を育成する。			
部活動加入率90%以上を目指すとともに、各活動を通して生徒の自己指導能力を育み、人間形成を図る。					
各部活動等による上位入賞（全国大会出場…3部、九州大会出場…5部、県大会出場…12部）を目指す。					
キャリア教育	生徒の社会性・自己肯定感を高め、早期からの進路意識の高揚を図る。	生徒の進路意識を高めるために、「進路講演会」や「進路ガイダンス」をはじめとする進路関係行事を計画的に企画・実施し、生徒を積極的に参加させる。			
		「総合的な探究の時間」はキャリア教育の視点、及び、大学進学・公務員就職での活用の視点を持ち、1年次に「進路探究」、2年次に「地域協創プロジェクト」を取り入れ、主体的に自分の進路について考えさせる内容にする。			
		生徒の進路希望を的確に把握するために、各学期1回の進路希望調査を行う。また、生徒のキャリア意識の形成を図るために、各学年と提携した「ポートフォリオ」を記録し、本年度から実施の「キャリア・パスポート」を作成させる。			
		生徒・保護者の進路意識を高めるために、進路だより「とびかた」を毎月発行し、進路に関する情報提供をする。			

<p>課外・長期補習・土曜セミナーの更なる充実を図り、生徒の基礎学力の伸長を図る。</p>	<p>生徒の進路希望実現を図るために、例えば、大学受験に対応できる「ハイレベル講座」、基礎力充実のための「スタンダード講座」を取り入れ、課外授業・長期補習・土曜セミナーを効果的に実施する。</p> <p>公務員試験を受験する生徒の進路希望実現を図るために、2年生12月からの公務員課外や公務員専門学校と連携した公務員専門科目・面接対策を企画・実施する。</p> <p>時間の大切さ（5分前行動）を学年と連携して指導し、7時40分（開始5分前）教室入室の徹底を図り、円滑に課外を開始する。</p>			
<p>模擬試験や英語民間検定試験を十分に活用し、習熟度や進路に応じた指導を通して、生徒の学力向上を目指し、生徒の第1希望進路の実現を目指す。</p>	<p>国公立大80名以上【昨年度から約20%増】、公務員コース8割以上【昨年度から約1割増】の合格を目指す（九州大以上の難関国立大合格者10名以上、国公立大の学校推薦型・総合選抜型入試での合格者20名以上）。</p> <p>進学模試の偏差値については、総合成績において、1・2年は進研模試54以上【国公立大合格の目安】に各学年80名以上【学年の1/3】、3年は50以上【全国平均】に80名以上を目指す。また、習熟クラスについては、総合成績で平均偏差値63【難関大学合格の目安】以上を目標とする。</p> <p>学校全体や生徒個人の課題を共有・分析し、生徒への進路指導の改善を図るために、PDCAサイクルを構築させる。 PDCAの定義は、 P：模試や定期考査の学習計画 D：模試や定期考査の受験 C：スタディサポート・模擬試験結果の分析、学習の振り返り A：授業・家庭学習の中での実践 というサイクルを指す。具体的には、教務課の「学習と生活の記録」を活用し、P：学習計画立案、D：実践、C：振り返り、A：改善策の実践をさせる。</p> <p>習熟度別クラスの特徴を最大限に生かし、九州大以上の志望者増といった高い志を持った生徒を育成するため、特に3学年において、全統模試や大学別テスト等の受験を推奨する。</p> <p>スタディサポートに代わる手段として、リクルート社「到達度テスト」の導入を検討する。</p>			
<p>保健</p> <p>生徒の心身の健康の保持増進を図り、自己管理能力を向上させる。</p>	<p>日常的な健康観察と、主な行事前の保健調査の実施で心身の健康状態の把握を行う。</p> <p>健康観察をもとに、個への対応と感染症等拡大の予防や対策を図る。</p> <p>教育相談委員会を定期的で開催し、「気になる生徒」に関する情報を共有する。</p> <p>教育相談を計画的に実施し、生徒・保護者・教員の悩みに対応する。</p> <p>健康診断や教育相談の結果を受け、保護者及び関係専門機関と連携し対応する。</p> <p>健康教育講演会を実施し、生徒自身の自己管理能力の向上を図る。</p> <p>特別支援教育の充実を図る。</p>			

	<p>予防の観点から学校安全及び環境衛生を整備する。</p> <p>生徒の主体的な美化活動を充実させる。</p>	<p>生徒のけがや病気に対する、適切な処置と対応を行う。</p> <p>学校管理下での災害状況を全職員に提示し、防止に役立てる。</p> <p>日常の安全・衛生面の点検・検査及び改善を適切に行う。</p> <p>学校薬剤師の指導のもと、学校環境衛生の整備に努める。</p> <p>生徒保健委員会活動に主体的に取り組みせ、文化発表会等で成果を発表させる。</p> <p>保健だよりや掲示物を充実させ、タイムリーな情報を発信する。</p> <p>美化委員会による活動を機能的に行い、全校生徒の主体的な美化活動を推進する。</p> <p>「美化充実期間」では、清掃状況についての評価を伝え、美化意識の高揚を図る。</p> <p>学校行事前後には清掃活動を強化し、校舎内外の精美を保持する。</p> <p>ゴミ捨て場での点検により、ゴミの分別を徹底させるとともに減量化を図る。</p> <p>「心を磨くトイレ掃除」研修会を計画・実施し、謙虚・感謝の心を育む。</p>			
<p>企画広報</p>	<p>在校生・中学生・保護者・同窓会・地域社会に対し、積極的で、迅速な広報活動を行い、魅力的な八女高の姿を発信していく。</p>	<p>各学校行事については、設営等の静的な記録だけでなく、生徒の活動等の動的な記録も行う。</p> <p>校外の活動（部活動等）についても、可能な限り生徒の活動を記録する。</p> <p>記録後、速やかに写真・映像等を精選し、効率的に収集する。</p> <p>ホームページは、情報管理担当者との連携のもと、校内の最新状況を各行事後5日以内に上げるなど随時更新する。</p> <p>学校案内・「八女高ポスターカレンダー」は1学期内に作成し、生徒募集につなげる。</p> <p>校内掲示板・立て看板・横断幕等の効果的な活用を行う。</p> <p>学校行事等を外部に発信する機会を増やすため、新聞社等への取材依頼を行う。</p>			
	<p>各分掌や教職員間の連携を促進しながら、活動を支援し、諸行事の円滑な遂行を図る。</p>	<p>各分掌との打ち合わせを緊密にし、学校行事等が円滑に運営できるよう支援する。</p> <p>月行事予定表を前半月分に配付（2ヶ月分）し、職員・生徒の有効な活用を促す。</p> <p>P T A各委員会の会議や活動に全職員が参加し、P T A活動をより充実したものにするとともに保護者との交流に努める。</p> <p>職員室の整理整頓を促し、教職員の働きやすい環境作りに努める。</p> <p>月当番の決定と親交会行事運営の支援を通して、職員間の親睦深化に努める。</p>			

<p>情報管理</p>	<p>ICTを活用した校務支援・授業支援のシステムを構築し、生徒・教職員のためになる環境づくりをすすめていく。</p>	<p>校務支援システムの導入にあたり、生徒の個人情報の一元化に努め、少しでも教職員の負担軽減ができるようなシステムづくりをしていく。</p>				
		<p>無線LAN環境も整い、全教室にプロジェクタが導入されたので、さらに授業や学校生活におけるICTを活用する方策を考え、情報共有を行うとともに実践していく。</p>				
		<p>個人情報及び校務情報の流出防止のために、校内での情報セキュリティポリシーを確立し、各職員が守るべき重要情報を明確にするとともに、それを守るための操作手順の遵守を徹底させる。</p>				
<p>1 学年経営</p>	<p>管理的生徒指導から心を育てる生徒指導への転換を図る。</p>	<p>自分の良さを生かす場面を考えさせ、自分が価値ある存在であることに気付かせることで、学年の出席皆勤率「70%以上」を目指す。</p>				
		<p>交通ルールやマナーを守ることはどういうことなのか、考え、実践（判断）させることで、交通事故「0」に繋げていく。</p>				
		<p>校訓「質実剛健」の持つ意味は何なのか、部活動に加入するとはどういうことなのか、考え、実践させることで、部活動加入率「90%以上」を目指す。</p>				
		<p>学校内外での場に合った挨拶とは何か、考え、実践（判断）させる。</p>				
		<p>主体的な時間管理とは何なのか、考え、実践（判断）させる。</p>				
		<p>相応しい服装・髪型とは何なのか、考え、実践（判断）させる。</p>				
		<p>指定区域を丁寧に清掃することはどういうことに繋がっていくのか、考え、実践させる。</p>				
<p></p>	<p>共感的人間関係を育成する。</p>	<p>社会に受け入れられる自己実現や社会性の獲得を促すためにも、ルールを守れない生徒に対しては、毅然とした態度で「悪いことは悪い」と伝える。</p>				
		<p>自分自身や人間関係に悩んだりした生徒に対しては、職員間だけでなく、関係諸機関とも必要な情報を共有し、受け止め、次の一歩が踏み出せるように支えていく。</p>				
		<p>二者面談や三者面談、日常の会話を通して、将来のために、今、何をすべきかを論じたり、自分の生き方や将来等について思いをめぐらすように示唆したりする。</p>				
		<p>学校生活におけるさまざまな場面で、生徒が発言する機会及び聴く機会を増やし、相互に考え方や人間性を認めていく。</p>				
<p></p>	<p>自己決定的場や自己存在感を与える。</p>	<p>学校生活における各自の役割を自分で決めさせることで自己決定的場を確保する。</p>				
		<p>それぞれの生徒が授業のどの場面で生かされるのか考え、授業改善を図っていくことで、生徒に自己存在感を感じさせる。</p>				
		<p>学校生活を通して得た知識や技能を、どのように活用したら自分や周囲の人々が幸せになるかを思い描かせることで、学習意欲を喚起し、家庭学習時間の確保と増加に導く。</p>				
		<p>進研模試において、3教科総合および数学で偏差値54以上80名、50以下50名を目指す。また、習熟度クラスは3教科総合で平均点偏差値63を目標とする。</p>				
		<p>成績不振者に対して正副担任と教科担当者の連携のもと、その原因を早期に把握し、個に応じた指導を行う。</p>				

2 学年経営	「社会人基礎力～前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力～」を育成する。	学校行事や部活動、生徒会活動や委員会活動等を通して、「主体性」、「働きかけ力」、「実行力」を育成する。			
		校外の各種事業への参加を通して、「課題発見力」、「計画力」、「創造力」を育成する。			
		コミュニケーションの基本となる、心のこもった挨拶や場に合った言葉遣いができるように指導する。			
		社会のルールや人との約束を守る「規律性」を身に付けさせるため、身だしなみや提出物の期限を守るよう学年団全員で指導する。			
		授業、HR、総学等の諸活動を通して、「発信力」と「傾聴力」を育成する。			
		規律正しい生活リズムを確立させ、健康管理への意識を高めさせることにより、出席皆勤率70%以上を目指す。			
		「養志講座」や先生方からの講話を通して、さまざまな考えや価値観を受け入れる「柔軟性」を育成する。			
		HR・集会の講話等を通して、自己を肯定し、他者を尊重する心を育成する。			
キャリア教育の充実による進路意識の高揚と学力の向上を図る。		「総合的な探究の時間」などを通して、進路意識を高めさせる。			
		習熟度別クラス編成のメリットを活かし、各教科で連絡を密にししながら上位層と下位層の双方の学力を伸ばす授業を行う。			
		家庭学習の習慣を定着させ、課題を自分の力でやり遂げる習慣を身につけさせるとともに各自の進路目標に応じた学習を工夫させる。			
		進研模試3教科総合で偏差値54以上80名以上を目標とする。また、習熟度クラスは3教科総合で平均偏差値63を目標とする。			
		成績不振者に対して正副担任と教科担当者の連携のもと、その原因を早期に把握し、十分な指導を行う。			
生徒理解に努め、生徒・保護者との信頼関係の構築を図る。		二者面談や日常の対話を通して、生徒理解に努め、保護者との連絡を密にすることで信頼関係の構築を図る。			
		学年と教科担当者、保健室の連携を十分に図り、全職員で生徒の把握に努める。			

3 学年経営	志を高く持たせ、進路実現に向けて意識と学力の向上を図る。	HR・学年集会・個人面談で大学入試の情報を的確に伝え、自分の将来について考えさせ、進路目標を明確にすることで、高い志をもたせる。			
		国公立大学合格80名以上、公務員コース8割以上の合格を目標とする。(難関国立大学10名以上、国公立大学学校推薦型・総合選抜型入試20名以上)			
		進研模試の偏差値については総合成績で50以上に80名以上、習熟クラスについては、総合成績で平均偏差値63以上を目標とする。			
		進路実現に必要な思考力・判断力・表現力等を育成するため、指導内容・指導方法の工夫を図り、授業改善(アクティブラーニング・ICTの活用など)を行う。			
		学力に応じた(習熟度別クラス等)学習指導を継続的に行い、バランスが取れた学力を身につけさせる。			
		学年での連絡を密にして、学習・進路探究活動を充実させ、進路実現に向けた意識の向上を図る。			
		難関大学受験希望者に対して添削・課題などの指導を行う。また、成績下位者に対して定期考査前に補講計画を立て実施する。			
	受験生としての生活・学習習慣を確立させる。	自己管理能力をさらに向上させ、受験生としての生活リズムを確立させ、出席皆勤率70%以上を目標とする。			
		自ら学習する姿勢を育成し、進路実現を意識した計画的な学習の取組を行わせる。早朝学習や居残り学習などを推進し、平日200分以上、休日400分以上の家庭学習時間を確保させる。			
		5分前行動の習慣を定着させ、物事に余裕を持って取り組ませるとともに、心のこもった挨拶や校門一礼、場に適した言葉遣いができるように指導を継続する。			
		個人面談を充実させ、保護者や養護教諭と連携を図り、学年全体で生徒の情報を共有して適切な指導を行う。			
	人間性と社会性を育成し、八女高の最高学年として自覚ある行動をさせる。	八女高の最高学年であることを自覚させ、学校行事・部活動・委員会活動・係業務に責任を持って主体的に取り組ませ、充実感・達成感を持たせる。			
		学年集会・HR等において、生徒が自主的に活動する場を作りリーダーシップを養う。			
		自分に関わるすべての人に感謝し、他人を思いやる優しい心を育成する。			
		ルール・マナー(時間・規則・期限・交通)の遵守指導や職員の一貫した服装頭髪の指導を継続して行い、規範意識・道徳的価値観を向上させる。			
清掃活動を通して、奉仕の心を育成するとともに、学習環境を整備し落ち着いた学校生活を送らせる。					